

土砂災害の対策

日本は土砂災害
が発生するリスク
を常時負っています

約七割が山地で地質が脆弱なうえ、年平均降水量は世界平均の約二倍です。今回この記事では、気象庁と国土交通省のホームページに記載されている土砂災害の対策について紹介します。

土砂災害は雨や地震などの影響により、土砂の流出や崩壊が起こる災害の総称です。雨による土砂災害は、低気圧や前線、台風の停滞や通過などによる集中豪雨が発生する時、特に起こりやすくなります。土砂災害が起きた時に自分の身を守るためには、普段から素早い避難行動をとれるよう準備しておくことが大切です。自治体のハザードマップを見て、「土砂災害危険箇所」や「土砂災害特別警戒区域」を確認しましょう。自宅が指定区域内にある場合には、最新の情報に注意し、迅速に避難を開始するように心掛けましょう。土砂災害警戒情報が発表された際は、全員避難を開始してください。(3年Y)

在宅避難のすすめ

前号の「コ
ロナ禍での
災害避難感

染をどう防ぐ」では分散避難について触れました。今回は東京都総務局総合防災部発行『東京防災』と日本防災士機構発行『防災士教本』を参考に、在宅避難について取り上げます。

現在感染症対策で三密を避ける必要があり、可能な限り在宅避難が勧められています。在宅避難を可能に

するためには事前に準備を行うておくことが必要です。重要なのがラインの代替です。カセットコンロや乾電池で作動する携帯電灯等を用意しておきましょう。食料品や日用品は、日頃から多めに買い揃えて生活の中で消費していく日常備蓄(ローリングストック)を行うことにより簡単に備えられます。



避難所に行かない在宅避難は情報が不足する恐れがあります。防災ウェブサイトとして役立つのが「東京都防災ホームページ」です。ツイッターアカウントの「東京都防災 (@tokyo_bousai)」は東京都総合防災部の公式アカウントです。災害に関する情報は、気象庁や消防庁などの国の機関、都道府県庁、市町村役場のホームページでも提供されるようになってきています。信頼できる情報源による正しい情報を収集し、適切な行動をとりましょう。在宅避難をする際は、自宅と周辺の安全を十分確認する必要があります。危険を感じたらためらわずに近くの避難所へ行きましょう。(5年Y)

災害時に役立つ

防災グッズ

近年、台風や地震などによる被害が多発している中で私たちは生活をしていきます。こうした状況下で実際に私たちが災害に遭った時にとても役に立つのが防災グッズです。今回は、災害時に役立つ備蓄品三点を紹介いたします。

①飲料水 人間が生きていく上で水分の摂取は不可欠であり、水分不足は脳梗塞や心筋梗塞といった様々な健康障害のリスク要因となります。災害時には物資の供給が停滞し、自動販売機などで水を手に入れることは困難になることが予想されます。そのため、飲料水や調理用の水を備蓄しておくことが必要です。一人一日3リットルを最低限三日分(南海トラフ巨大地震では一週間分)以上備蓄しておくことが望ましいとされています。

②多機能ラジオ 災害時には電気を含むライフラインが切断されることがあり情報収集が困難になるため、手回し発電によるラジオが役立ちます。手回し発電によるラジオは懐中電灯の役割が担える物もあるので、所持しておくことが便利です。

③救急用品 怪我を負った時に必要になるのは救急用品です。一時的な止血をするためのガーゼや、アルコール消毒液などを用意しておくことが便利です。各家庭の抱える環境は様々です。環境や人数によって備えておくべき品目や量を考え、防災グッズを活用することが大切です。災害はいつでも起こりうるということを前提に、日頃の備えを行うことが必要です。(2年Z)

＜クイズ防災＞ 土砂災害の前兆は？ ふさわしいものを全て選択せよ (答えは次号！)

- ア 腐った土の臭いがする
- イ 耳鳴りがする
- ウ 小石がパラパラと落ちてくる
- エ 地鳴りが聞こえる
- オ 崖にひび割れができる